

噴煙

第25号

阿蘇市文化協会
広報委員会

〈印刷所〉
つるばやし印刷



会長兼事務局長
小嶋 維男

会長あいさつ

会長職二度目二年目を迎えました。昨年は震災後の文化祭やドラマT.A.Oの鑑賞、皆さん楽しんでいただけませんか？不安でしたが、事務局員、役員、会員の皆様のご協力が無事終えることができました。例年に無い第四回三月末の理事会へもたくさんの方の理事の皆様に出席いただき貴重な前向きのご意見提案をいただき、一昨年からの提唱しておりました・ポトムアップ・この意識が浸透しつつあることを実感した次第です。

今年度も既に第二回目の理事会が開催され、震災後、復旧叶わず再入会されないグループもありますが、新たに入会されたグループもありです。新理事、新常任理事も決まりつつあります。昨年の両委員会での意見交換会で提案された改善点を反映して更に充実した会員各位の文化活動のバックアップ、芸術文化の拠点としての阿蘇市文化協会を目指し共に邁進して参りましょう。

市教育委員会、会員各位のご支援ご協力をお願い申し上げます。

平成30年度 阿蘇市文化協会総会「特別講演会」を開催



阿蘇市医療センター
院長 甲斐 豊

平成三十年年度第十三回阿蘇市文化協会総会が四月二十一日農村環境改善センターにて開催されました。阿南誠一郎教育長、岩本浩治県議(代読)から挨拶をいただき、その後平成二十九年度事業報告・決算、平成三十年度事業計画と予算計画について幾つかの質疑が交わされ六つの議案のすべてが承認されました。

また、総会に先立ち、阿蘇市医療センター院長 甲斐 豊氏をお招きし「熊本地震、その時阿蘇は!」をテーマに、体験談など七十分に渡り講演をしていただきました。

熊本地震、その時阿蘇は!

阿蘇医療センターは阿蘇地域医療の拠点病院として設立されており、その成り立ちとその使命、熊本地震で災害拠点病院としての重要な役割を果たすことができました。阿蘇医療センターは免震構造で設計・設備されており、熊本地震において建物の設備の大きな被害もなく、発生直後から医療スタッフが駆けつけ多くの救急患者の治療を行うことができました。また地震後は阿蘇地域も甚大な被害を受けたことから全国各地からのDMAT(災害派遣医療チーム)および救護班、薬剤師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師などの多くの支援を受けて災害拠点病院として阿蘇地域の避難所や病院へ医療支援活動を展開・維持することができました。

当医療センターは開院後三年八月を経りましたが、阿蘇地域及び中核病院として、住民にとって最適な医療を提供できる体制を整え、日本医療機能評価機構の認定を受けるなど、誰もが頼れる病院になったことを感じさせる素晴らしい講演会となりました。

*DMAT(Disaster Medical Assistance Team)

阿蘇往来 VOL.2

阿蘇絵画火曜会 関 英輝氏 寄稿

筆者の家の斜め向かいに、瀟洒なログハウス造りの別荘がある。庭に芝生が張られ、椿の垣根をめぐらせた家に向いた。玄関に白髪のお紳士があらわれ短い会話を交わした。その白髪のお紳士こそ小説「横井小楠」を著した小説家「山下卓」氏であった。彼は出版したばかりの「横井小楠」を示しながら、「六年間、この別荘にこもって書き上げたこと、さらに資料収集の苦労話などを聞かせてくださった。しかし、筆者は横井小楠という人物を知らなかった。早速、頂いた小説「横井小楠」を通読した。幕末の偉大な思想家で明治維新の政治に、大きな足跡を残した人物であることを知った。

阿蘇外輪山のなだらかな山道を、壮年の武士が独り歩いてた。天保十年(一八三九年)の、春三月のころである。南国九州の春は、野山がいつせいに新緑を噴き出す。この日、朝から降るとも見えない霧雨が降り続き、若葉をたたえた山々は、絵筆を水にとかしたように煙って見えた。肥後(熊本)から豊後(大分)へ向かうには、現在は外輪山の裂け目に当たる立野を越えて国道五七号線が走っているが、当時は立野からわずかに北にある、二重峠を越えて行くのが豊後路であった。

参勤交代の行列も一般の旅人も、この二重峠を超えて阿蘇谷へ下り、内牧に一泊し、宮地を経て再び東の外輪山を越え、豊後鶴崎へと向かうのが普通の道順である。この塗笠をかぶった黒っぽい姿の武士こそ横井平四郎であり「横井小楠」その人である。肥後藩から江戸留学を命ぜられ、昨日熊本を旅立つて内牧に一泊した平四郎は、阿蘇を東南に向けて歩いてる。外輪山の地形は、裾野は爪先あがりのおだやかな坂道で、山麓にかかると急に険しい山道となる。阿蘇の山は涅槃像に似ていて、ふつくとしたお腹のあたりから噴煙が上がっているが、ちょうど顔のあたりが根子岳で、平四郎の足はその方角に向かっている。根子岳を取り巻く

ように外輪山が迫っていて、その急峻な滝室坂を上っていくと笹倉郷に着く。後年、勝海舟をして「天下に恐ろしい者を二人見たが、一人は横井小楠で、もう一人は西郷隆盛だ」と言わせたほどの政治思想家となつて、明治維新の舞台裏で指導的役割を果たすことになる。しかし平四郎の江戸留学は、わずか一年半で頓挫する。酒席で争いを起こし逃げ帰る失態を演じる。藩からの帰国命令と謹慎処分をうけ、現在の熊本市東区秋津町沼山津に蟄居、ここに「小楠塾」を開く。当時の沼山津は、熊本城下から東に遠く、藩政府に知られず密かに小楠に会うた。藩政には最適であった。門弟に徳富一敬がやってくる。一敬は徳富蘇峰、蘆花の父親である。また、長崎のロシア艦隊で密航するという秘めた目的を胸に、吉田松陰が瀬戸内海を渡り豊後鶴崎から阿蘇を経て小楠を訪ねる。また、小楠の甥左平太と勝海舟、坂本竜馬の若い侍が、風になびく草原をにぎやかに楽しそうに時世を論じながら阿蘇路を、熊本城下沼山津の「小楠塾」を目指して旅をする。阿蘇の往来は、徳川幕府の終焉と明治新時代に向けての道行でもあったのである。門弟の中に越前藩(福井)からきた若者がいた。この若者のくちききで越前藩に赴く。

小楠はその高い政治思想の故に、肥後藩から徹底的に嫌われ、越前藩に重用されることとなる。当時、危機に瀕した徳川幕府の重責をになう松平春嶽が越前藩主であった。小楠のその理想は、富国とか強兵とかの次元ではなく、戦争と貧困をなくした理想社会を実現することであり、大義を世界に知らしめることであった。現代の私たちにとって、いまだ解けない宿題を、小楠は阿蘇の道を歩きながら考えていたことであろう。小楠は明治二年一月五日午後、京都年六十一歳であった。殺害理由は「開国を進めて日本をキリスト教化しよう」としている。日本であった。

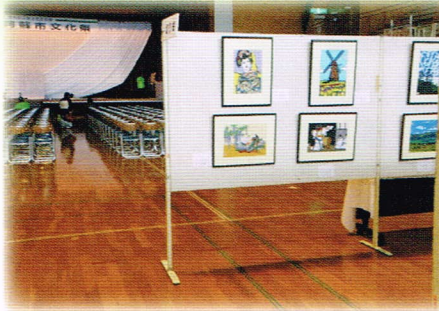
勝海舟は言う「小楠という人物は、とても尋常の物差しでは分るめえ」この難解な人物をいきいきと描き尽くされた山下卓氏も、すでに鬼籍に入られたと聞く。

参考：山下卓著「横井小楠」



みんなで花を咲かせましょう

～ 文化祭をメインに活動します! ～



《展示の部》

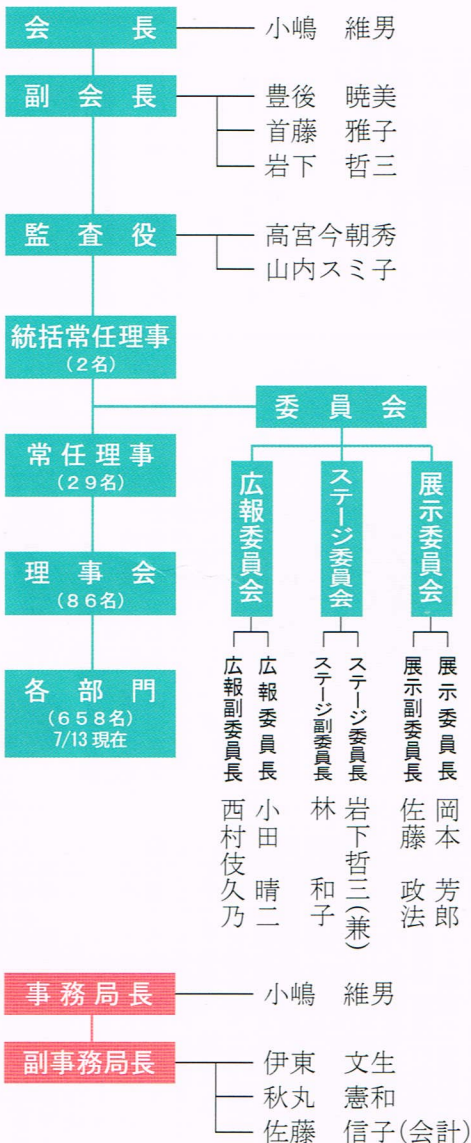
第12回文化祭の開催

第12回文化祭を
11月3日(土・祝)～
4日(日)の
2日間開催します。



《ステージの部》

文化協会組織図



観月茶会 (琴・尺八ライブ) の開催

9月22日(土)農村環境改善センター(内牧)

秋の夜長、一夜の月を愛でながら「お茶」を一服してみませんか。



田代勝子氏 profile

福岡市在住
ハンガリー国立博物館において演奏、国会議事堂に招待
モナコ公国大公まえにて演奏およびNHKの『邦楽のひととき』に複数回出演、また国内各所にて演奏や指導を行ない、多くの文化団体からの感謝状および佐賀県芸術文化功労賞を受賞されている。

村上鈴光氏 (本名：村上光平) profile

福岡在住
14歳で父村上光風に琴古流尺八を学び、17歳で初舞台、暫く中断の後、琴古流虚空庵渡邊鈴土師事し、人間国宝の青木鈴慕氏より師範免許を受け現在に至る。

予定曲目

- ・ことうた～わらべ唄
- ・変容 (へんよう)
- ・兎と亀 他

阿蘇市文化協会では、

平成30年度会員を募集しています。



会員を対象にした役員研修、一般研修などにも取り組み、会員間の友好と絆を深めてまいります。ともに、活動に取り組む人を年中募集しています。個人、団体を問わずお問い合わせください。

〔連絡先〕

阿蘇市文化協会事務局 ☎ 0967-32-3218 (小嶋)

研修について

平成30年度は役員研修と一般研修を合同で行う計画です。日程および研修先共に現時点では未定の状況ですが、楽しみにお待ちしております。